熊本県一の宮町立中通小学校

○　はじめに

本校は、平成１３・１４年度文部科学省の人権教育の研究指定を受け、研究及び実践を進めているところである。この人権教育を推進する際、児童の人権意識を育むための豊かな体験活動が、重要な要素になると考えている。

そこで、本校が取り組む豊かな体験活動においては、人権の視点を位置づけ、主に総合的な学習の時間（生活科を含む）や特別活動の時間を活用し、様々な体験をとおして、「人を大切にする心」「ふるさとを愛する心」を育てていくことをめざしてきた。

以下、本校の教育活動における豊かな体験活動の概要を述べることとする。

1　研究の方向

(1) 研究テーマ

わたしが光る　みんなが光る　中通　大すき！
～ 自他のすばらしさに気づき、互いに認め合い、共に高め合おうとする豊かな体験活動へのアプローチ ～

(2) 研究テーマについて

本校では、近年、「開かれた学校づくり」の取組により、学校と地域とのパートナーシップのあり方についての方向づけを行い、体験活動を組み入れた実践を進めてきた。

本校が取り組む「豊かな体験活動」とは、地域の人々とのふれ合いや地域素材の活用を重視した取組である。児童は、地域の「ひと、もの、こと」と関わることをとおして、地域の人々のあたたかさや地域のすばらしさに気づき、互いの人権を尊重し合う人間関係を築いていくことになる。また、地域の方々とのふれ合いを深めていくなかで、地域を愛する心や自分自身を誇りに思う心が醸成され、児童の心情にプラスの考え方や見方が芽生えてくるものだと考える。さらに、児童は、こうした体験活動をとおして、自他のよさを実感し、互いの違いを受け入れ、自分自身を見つめ直す機会を得ることになるであろう。

そのために、互いの考えやよさを出し合って学び合う学習活動に主体的に取り組み、その楽しさや喜びを味わわせながら、互いに認め合い高め合うことを大切にした取組を構築していきたい。そして、児童の豊かな感性をさらに磨き、自分も相手も大切にできる心情を高め、一人一人の自己実現をめざした教育実践を推進していきたいと考えている。

以上の点をふまえ、本研究テーマのもと、豊かな体験活動に取り組むこととした。

(3) 研究の推進について

① 校務分掌に「豊かな体験活動」の担当者を置き、学校長を中心とした「体験活動推進委員会」を設置し、実践の推進を図る。

② 見通しをもった豊かな体験活動とするために教育課程の編成や年間指導計画、指導と評価等について工夫を行う。

③ これまで本校が取り組んできた「開かれた学校づくり」の実践を生かして、地域社会の教育力を取り入れ、効果的な体験活動ができる学校支援委員会を整備する。

2　研究の実際

(1) 豊かな体験活動における３つのねらい

本校においては、以下の３つのねらいを掲げて、豊かな体験活動を実施している。

課題設定及び問題解決の能力の育成	自己の興味・関心に基づき、自己のめあてを持って学習計画を設定し、仲間と協力して主体的に学習課題の解決にあたることができる。
学び方・ものの考え方及びコミュニケーション能力の育成	情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告及び討論などの仕方を身につけ、それらを活用することができる。また、パソコンを使った調べ学習、学習のまとめ及びプレゼンテーションを積極的に行うことができる。
自己の生き方を考える心情の育成	「ひと・もの・こと」に出会うことにより、自分の考えや意見を持ち、自分の生き方について考え見直すことができる。

(2) 豊かな体験活動年間計画（概略）について

今年度の体験活動年間計画を以下のように設定し、体験活動に取り組むこととした。

豊かな体験学習学校テーマ　【 つながろう 人と 自然と ふるさとと 】					
	１・２年生	３・４年生	５年生	６年生	全校
一学期	○ともだちいっぱい ○あそびにいこうよ	○家の仕事を調べよう ○お年寄りの方と仲良くなろう	○中通の農業を考えよう ○水俣病をとおして人権を考えよう	○平和について考えよう ○障害者問題について考えよう	○清峰高校の先輩と田植えをしよう ○グリーンヒルとの交流
二学期	○生きものだいすき ○はっぱのいろがかわったよ	○中通の産業について調べよう	○ハンセン病問題について考えよう ○韓国の文化について調べよう	○阿蘇の生活文化を調べよう ○一人暮らしの老人の方との交流	○清峰高校の先輩と稲刈りをしよう ○グリーンヒルの方と芋ほりをしよう
三学期	○みんなだいすき	○仕事マップを作ろう	○１年間の取組のまとめをしよう	○卒業レポートをまとめよう	○韓国の人たちと交流をしよう

本校の「豊かな体験活動」の教育課程上の位置づけとしては、総合的な学習の時間及び生活科を中心として、学校行事等において実施することとしている。

(3) 評価活動について

評価は、ポートフォリオ（活動記録のファイリング）を中心に教師側の観察等によって行う。児童の活動の記録を随時とることにより、一人一人の児童の思いや考え、問題解決の過程が把握できるようにしている。また、評価を行う際、「Plan－Do－Check－Actionというサイクルにおける指導と評価の一体化」、「多様な評価方法を用い、児童一人一人の変容を認めることができるような評価活動」という点に留意し、児童の活動意欲を高める評価活動を進めていくことにしている。

なお、ポートフォリオの作成にあたっては、以下の要領で作成することにしている。

【作成の主な手順】

1「豊かな体験学習」の準備
・クリアファイル等配布、ポートフォリオの説明

2「豊かな体験学習」スタート
① 元ポートフォリオ作成
・資料や成果を時系列に沿ってまとめる。
② 凝縮ポートフォリオ作成
・元ポートフォリオから重要なところを成果としてまとめる。

作成している様子

3「豊かな体験学習」テーマ学習のまとめ
・凝縮ポートフォリオから身につけた力を確認することをとおして、自己を見つめ直す。
・テーマ学習の中でまとめる活動をとおして、自己肯定感の向上をめざす。

＊ポートフォリオとは…

＜どんなものか＞
・学習に関わる資料や記録をファイルに集約したもの。

＜評価にどう役立てるのか＞
・一人一人の子どものポートフォリオを中心に据えながら、学習を振り返り、成長過程を確認し、今後の学習の方向性の確認に役立てる。

(4) 豊かな体験活動の実践事例

本校の豊かな体験活動について、具体的実践事例を以下に示す。

① 田植え・稲刈り体験

今年度、阿蘇清峰高校と合同の田植え・稲刈り体験を行った。児童は、高校生と共に田植えを行い、苗がどのようにして植えられていくのかを肌で感じることができた。その後、秋には稲刈りを体験し、自分たちで植えた稲を刈り取る作業を行い、実習担当の先生から労働と食についての話をしていただき、体験に支えられた聞き取り学習を行うことができた。

田植え体験

② 坂道散策・草泊まり製作

阿蘇地方で放牧を行う農家は、９～１０月にかけて牛馬の冬の飼料となる干し草を刈る作業を毎年行っている。昭和３０年代頃まで、この干し草刈りをするために、阿蘇外輪山の草刈り場に通ずる坂道を登らねばならなかった。また、数日間かけて干し草を刈るための宿泊施設として「草泊まり」という茅葺きの簡易の野営施設を設置していた歴史がある。

坂道の散策

地域の歴史文化を学ぶ体験活動として、地域のふるさと名人さんをゲストティーチャーとして招き、坂道の散策や草泊まりの製作を行った。

初めて体験した児童は、先人たちの知恵や努力を実感することができ、ふるさとの文化を再発見することができた。この後、草泊まりで食されていた干し肉作りにも挑戦し、さらに学習を深めていった。

草泊まり製作

③　グリーンヒル（老人保健施設）との交流

本校では数年前から、老人保健施設グリーンヒルとの交流を行っている。この交流会は、お年寄りの方々が楽しめるようなゲームを児童会で企画し、実施するものである。児童にとっては、お年寄りの方々とのふれ合いをとおして、お年寄りの方々の知恵やすばらしさを実感し、また、お年寄りの方々の喜ばれる姿を目のあたりにすることにより、あたたかな人間関係を育むことができた。

缶つみゲーム

④ ホタルの飼育・放流活動

中通の自然のすばらしさに目を向けさせ、郷土を愛する心を深めさせることを目的として、一の宮ホタルの会の方々と一緒にホタルの幼虫を飼育し、その幼虫を近くの川に放流する活動を行った。

この活動をとおして、児童は、地域の方が地域をよりよきものにしようとする思いにふれ、「中通を自分たちの手でもっとすばらしいところにしよう！」という気持ちが芽生え、ふるさとを誇りに思える心情が育ってきた。

ホタルの幼虫の放流

(5) 学校支援委員会について

豊かな体験活動を支援していただく組織として、以下のメンバーの方々を中心にした学校支援委員会を設置し、推進体制の確立をめざしている。（計１６名）

・委員長（公民館長）・副委員長（ＰＴＡ会長及び中通小校長）・書記（中通小教頭）
・会計（中通小教諭）・委員（区長会代表、教育委員、老友会会長、婦人会長、体育協会長、ＪＡ支所長、財産区委員長、民生委員、少年消防クラブ幹事長、子ども会育成会長、近隣保育園長）

3　研究の成果と課題

本研究の実践を整理すると、以下の成果と結果が明らかになってきた。

(1) 研究の成果

○豊かな体験活動をとおして、自分も相手も大切にしようとする児童の心情が育ち、人権意識が着実に高まっている。
○地域素材にふれることにより、地域のよさをみつめ、地域を誇りに思えるような心情が育ってきた。

(2) 研究の課題

○豊かな体験活動を活動のねらいに沿ってカテゴリー毎に整理し、体験活動年間計画を見直す必要がある。
○児童の変容をより具体的に把握するために、ポートフォリオを中心とした評価活動をさらに進めていく必要がある。

○　おわりに

「昔の人たちってすごかったんですね。」という児童のきづきがあった。体験活動をとおして、地域のひと・もの・ことが児童にとってより身近になった瞬間である。

また、「子どもたちの目の輝きはすばらしいですね。」というような、地域の方から感想を頂くたびに、体験活動をとおして地域と児童とが深くつながっていく様子を感じることができた。今後、取組の視点をより明確にしながら体験活動を推進していきたい。